

奈良・石神遺跡

1 所在地 奈良県高市郡明日香村飛鳥

2 調査期間 第一七次調査 二〇〇四年(平16)四月~一〇月

3 発掘機関 奈良文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部

4 調査担当者 代表 金子裕之

5 遺跡の種類 宮殿・官衙跡

6 遺跡の年代 飛鳥時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

一九八一年度より実施している石神遺跡の継続調査の一七回目である。調査地は遺跡の主体となる施設群の北外側にあたる。木簡が

多数出土した第一五・一六次調査区の東側に一部重複するよう、南北二カ所の調査区を設けた。調査総面積は約六五四m²である。

検出した遺構は、A期以前の自然流路(沼沢地)、A期(七世紀前半から中頃まで)の溝・土坑、B期(七



(吉野山)

世紀後半頃)の掘立柱南北堀・溝、C期(七世紀末頃)の溝・土坑、C期以降の溝などであり、あまり遺構密度は高くない。このうち、調査区の大半を覆う自然流路について、第一五・一六次調査ではA期の遺構としたが、第一七次調査区の堆積土からは古墳時代中期の土器がまとまって出土したため、第一五・一六次調査区も含めて、すでにA期には自然流路の埋め立てが完了していた可能性が出てきた。

木簡は、第一五次調査区埋め戻し土から一点、第一六次調査区埋め戻し土から二点、合計三点出土したが、いずれも遺構には直接関係しない。ここでは釈読可能な第一五次調査区の範囲の埋め戻し出土の一点を紹介する。

木簡は、第一五次調査区埋め戻し土から一点、第一六次調査区埋め戻し土から二点、合計三点出土したが、いずれも遺構には直接関係しない。ここでは釈読可能な第一五次調査区の範囲の埋め戻し出土の一点を紹介する。

木簡は、第一五次調査区埋め戻し土から一点、第一六次調査区埋め戻し土から二点、合計三点出土したが、いずれも遺構には直接関係しない。ここでは釈読可能な第一五次調査区の範囲の埋め戻し出土の一点を紹介する。

8 木簡の釈文・内容
(1) <□上人同野上人<

(99)×26×5 031

下端と左右両辺は削り、上端折れ。上下両端に切り込みをもつ荷札・付札状の形態の木簡であるが、墨書内容との関連は不明。

9 関係文献

奈良文化財研究所『奈良文化財研究所紀要1005』(1005年)
同『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報』一九(1005年)

(市 大樹)